

水田内雑草の適正防除による アカスジカスミカメ対策について

～ カヤツリグサ科雑草やノビエが多いほ場では、
アカスジカスミカメが多発します ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

斑点米カメムシ類の主要種であるアカスジカスミカメ（以下「アカスジ」という）は、ホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエ（以下「雑草」という）の穂に産卵し増殖する。そのため、水田内で雑草が繁茂すると水田内へのアカスジの侵入が助長され、多発の原因となる。

実際、イネの出穂前に水田内で繁茂した雑草にアカスジが多数確認されており、昨年8月1～2半旬の抽出ほ場調査では、水田内に雑草があるほ場でアカスジが多く（表-1）、水田内雑草の密度は年々高まっている（図-1）。

昨年9月中旬におけるアカスジの水田内すくい取り数は多かったため、越冬量が多いと推定される。さらに同期すくい取り地点率も高かったため、本年の発生が多くなると予想される。

そのため、昨年と同様に水田内で雑草が繁茂した場合、アカスジの多発が懸念されるため、以下により雑草の適正防除に努める。

2. 防除対策

- 1) 田面の高低差が大きいと田面露出部分の除草剤の防除効果の低下につながるため、代かきは丁寧に行い田面の均平化を図る。
- 2) 水田内へのアカスジの侵入を防ぐため、適期に適切な除草剤を使用し水田内のカヤツリグサ科雑草やノビエの防除を徹底する。
- 3) 雑草が残った場合は、適期中・後期除草剤を使用し、雑草の開花・結実を抑制する。

3. 資料

表-1 水田内雑草の発生状況別の斑点米カメムシ類すくい取り数^{※1}（2017年8月1～2半旬）

雑草の発生状況 （カヤツリグサ科雑草・ノビエ）	雑草発生状況 別地点率（%）	アカスジカスミカメ（頭）	アカヒゲホソミドリ カスミカメ（頭）
発生無し	39	0.1	0.1
1本/㎡未満	47	2.1	0.1
1本/㎡以上	14	4.0	0.2

※1 水田内20回すくい取り調査

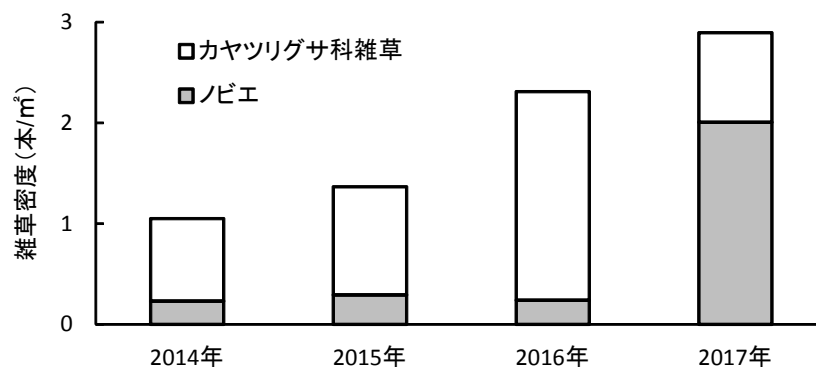


図-1 水田内におけるカヤツリグサ科雑草
とノビエ密度の年次推移(8月1～2半旬)

【 問合せ先 】

秋田県病虫害防除所 TEL 018-881-3660

秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326

掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>